**いとうせいこう×奥泉 光**

**＜文芸漫談シーズン７＞**

**小松左京『日本アパッチ族』**

この企画は、いとうせいこうと奥泉光が、小説の面白さを、笑いを取りながら伝えたいと、漫談形式で始めた文学ライブです。

芥川賞作家と稀代の仕掛人が捨て身でおくる、漫談スタイルの超ブンガク実践講座。

*小説の書き方・読み方がクスクスわかる？かも！*



2006年5月から年3回のシリーズで始まったこの会は、お客様に支えられながら今回で57回目となりました。会場は演劇の街・下北沢の北沢タウンホールです。

内容、構成はいたってシンプルで、作家・クリエーターとして活躍する“いとうせいこう”と、芥川賞作家の“奥泉光”が、名作と言われる文学作品を笑いを取り入れながら紐解いて行く漫談形式のトークショー（文芸漫談）です。

同類のトークショーのように、作品への理解を与えることにこそ違いはないのですが、そこに、博学がユーモアをまとったような二人の『笑い』が入ることにより、お客さまの興味をより深いところまで誘い、“豊かな文学”になるのでは、との試みです。

今回のお題は小松左京の「日本アパッチ族」。

会社の上司の鼻をひっぱったために懲戒免職。さらに三か月以内に就職しなかったとして、失業罪で逮捕、追放の判決を受けた木田福一。

砲兵工廠跡地に追放された彼は、餓死寸前で野犬に食われそうになっていたところを、アパッチ族に助けられた。

赤銅色の肌を持ち、鉄を主食としているアパッチ族。木田は、彼らの一員となり、謎に包まれた生体と生き様について、記録していく、、、。

小松左京の長編にして最高傑作の呼び声高い、記念碑的作品！

今回も、何だそれなら知っているよ！と、言われる方も、二人の手にかかると、なんと、こんな読み方もあったのかと納得いただけるものと思いますよ！

出演■**いとうせいこう／奥泉 光**

日時■**2025年7月18日（金）19：00開場／19：30開演**

料金■全席指定席　予約・当日共　☆3,000円

会場■北沢タウンホール（☎ 03-5478-8006）世田谷区北沢2-8-18

　　　　　　小田急線、京王井の頭線「下北沢駅」東口（中央口）より徒歩5分

ﾁｹｯﾄ問合せ■Ｋ・企画　（TEL＆FAX 03-3419-6318）

　　　　　　　HP < http://www.k-kikaku1996.com/work/bunman/index.html>

　　　　　■イープラス　< https://eplus.jp/>

　　　　　■チケットぴあ　Pコード：656693　< https://t.pia.jp/>

■カルテット予約フォーム

　　　　　　　https://www.quartet-online.net/ticket/bunman-57

主催■舞台よろず相談所 Ｋ・企画

**「日本アパッチ族」梗概**

1960年代の、史実とは違う日本が舞台である。

この世界では戦後の日本国憲法の方向性に対する反動が、実際に大きな流れとなって体制を変更したという仮定の歴史に基づく。そこでは基本的人権に関する条項のいわゆる権利が義務に置きかえられ、たとえば「労働の権利」のかわりに「労働の義務」が存在している。これに応じて労働法の改悪と引き換えに死刑が廃止され、重犯罪者（政治犯も含む）は「社会からの追放」という刑をうける。そして「失業」は重大な体制への反抗であり、追放刑の対象となる。追放地は社会と隔離された不毛の地であり、そのひとつが大阪砲兵工廠の跡地「法務省指定近畿地区追放地」、通称「大阪追放地」である。

またこの世界では、日本は再軍備しており「帝国」陸海空軍が存在する（核武装もしており、作品後半では原子砲も使用される）。

主人公である木田福一は、会社の上司に反抗して解雇され、一定期間内に再就職しなかった「失業罪」により「追放刑」の判決を受け、砲兵工廠跡地に「追放」される。

「追放刑」とは社会からの追放。自由だが不毛の追放地の中での「自由」は死を意味する。野犬に食われかけたところを政治犯の山田に救われ、一か八かの脱出を計画するも、寸前のところで失敗、山田は命を落とす。

木田も飢えで死に掛けたところを、謎の男たちに救われる。彼らこそ、大阪追放地の看守たちが噂するアパッチであった。アパッチは追放地の中に閉じ込められた元くず鉄泥棒たちが、ふとしたきっかけから「鉄を食べる人種」に進化したものである。通常の人間より強い腕力を持つ彼らは、二毛次郎大酋長の下で団結し、権力に反抗していた。

やがて木田もアパッチの一員になり、追放地の中で暮らすようになるが、ある日アパッチの交易相手の朝鮮人のスクラップ業者が警察に逮捕される。以前から追放地内でのアパッチの反抗に手を焼いていた国家が、とうとうアパッチ殲滅(せんめつ)に乗り出すことにしたのだ。

アパッチの生存をかけて軍と対立、外の世界で自治の確立に向けて否応なく立ち上がるアパッチたち。その後、日本各地の工業地帯に彼らと同じ体質の人間が次々と出現。仲間も増え、彼らは居留地を持ち、「産業」にまで影響をもたらすようになってくる。

ついに、クーデターにより政権を掌握した軍隊との本格的な対決が始まり、それはやがて「日本」という国家の存亡にかかわる大事件につながっていくのである・・・・・。

**小松左京　＜1931年～2011年＞**

1931年、大阪市生まれ。

京都大学文学部卒。

61年「地には平和を」でSFコンテスト選外努力賞。

64年に処女長編『日本アパッチ族』を発表。

73年『日本沈没』で日本推理作家協会賞、

85年『首都消失』で日本SF大賞を受賞。

他に『復活の日』『エスパイ』『継ぐのは誰か?』『小松左京全集完全版』など著書多数。

2011年に逝去。

**出演者紹介**

**【いとうせいこう】**

1961年、東京生まれ。早稲田大学法学部卒業。作家、クリエーター。

『ノーライフキング』で小説家としてデビュー。最新小説に『小説禁止令に賛同する』。主な作品に『想像ラジオ』『存在しない小説』『鼻に挟み撃ち他三編』。

ノンフィクション･対談集に『国境なき医師団を見に行く』『ラブという薬』『今夜、笑いの数を数えましょう』「ど忘れ書道」「ガザ、西岸地区、アンマン」「福島モノローグ」「われらの牧野富太郎！」『今すぐ知りたい日本の電力』『ラジオご歓談！爆笑傑作選』『東北モノローグ』『能十番』などがある。

盟友・みうらじゅん氏との共作「見仏記」シリーズでは新たな仏像の鑑賞を発信するなど、常に先の感覚を走り創作し続けるクリエーターである。

その他、舞台・音楽・テレビなどで活躍中。

公式HP＝http://www.cubeinc.co.jp/ito/

**【奥泉 光】**

1956年、山形生まれ。国際基督教大学大学院修了。小説家･近畿大学教授。

『石の来歴』で芥川賞、『東京自叙伝』で谷崎賞、『雪の階』では柴田錬三郎賞を受賞、『虚史のリズム』で毎日芸術賞を受賞、『清心館小伝』で川端康成文学賞を受賞。

他の主な小説に『虫樹音楽集』『シューマンの指』『神器　軍艦「橿原」殺人事件』『グランド･ミステリー』など。

いとうせいこうとの共著に『文学の聖典』『世界文学は面白い｡』などがある。

公式HP＝http://www.okuizumi.com/